Ⅳ　日本語研修・オリエンテーション実績

日本語研修は、技術研修上とくに日本語の修得を必要とする集団および個別研修コースの研修員を対象とする集中講習、および研修員全体を対象として日常生活の円滑化とわが国に対する理解を深めることを目的とする一般講習に分けられ、それぞれ東京インターナショナルセンターをはじめ各国際研修センター等で実施している。

また研修の一環として、技術研修に先立ち1週間のプログラムで、わが国の一般事情、研修および日常生活上の心得等について、主として、集団研修コースの研修員を対象として、オリエンテーションを東京インターナショナルセンター、八王子国際研修センター、名古屋国際研修センターで実施している。

1. 日本語研修・オリエンテーション参加研修員実績

実施機関	オリエンテーション		日本語研修			
			集中講習		一般講習	
	実施回数	参加人数	クラス数	参加人数	クラス数	参加人数
	回	人	クラス	人	クラス	人
東京インターナショナルセンター	41	2,200	38 (1)	367 (6)	35	977
八王子国際研修センター	12	199	6	50	13	158
大阪国際研修センター	—	—	4	28	11	87 (1)
名古屋国際研修センター	16	154	16	154	—	—
筑波インターナショナルセンター	—	—	9 (1)	93 (11)	22 (9)	175 (105)
神奈川国際水産研修センター	—	—	8	51	—	1
兵庫インターナショナルセンター	—	—	4	34	1	7
沖縄国際センター	—	—	6	46	—	—
東北支部	—	—	2	16※	1	2
九州支部	—	—	—	—	4	44
外部機関	—	—	2	21	3	44
計	69	2,553	95 (2)	844 (17)	90 (9)	1,495 (106)

(注) (1) ※は、TICからの継続分で、計上の際は、重複で避けるため除外した。

(2) (　)内の数字は前年度からの継続分で外数である。

(3) 外部機関とは、オイスカ等JICAが日本語研修の実施を委託した機関である。

2. 日本語研修（センター・支部別集中講習）

(1) 東京インターナショナルセンター

受入形態	研修コース名（研修科目）	国名	人数	日本語講習時間数 集中A	一般B	A＋B
集団	家畜人工受精	ネパール 他5ケ国	6	240		
集団	農業協同組合	エジプト 他16ケ国	21	40		
集団	看護管理	ビルマ 他6ケ国	10	75		
集団	結核対策	中国 他21ケ国	22	43		
集団	生活改善普及	ビルマ 他6ケ国	9	100		
集団	選鉱製錬	中国 他7ケ国	10	220		
集団	精神薄弱福祉	タイ 他9ケ国	10	95		
集団	結核対策細菌技術指導者	タイ 他5ケ国	6	70		
集団	船舶技術	バングラデシュ 他14ケ国	16	*260		
集団	エビ増養殖技術	タイ 他7ケ国	8	260		
集団合計	10コース		118			

*昭和59年度260 H＋昭和60年度50 H＝310 H

	受入形態	研修コース名（研修科目）	国名	人数	日本語講習時間数 集中A	一般B	A＋B
（前年度受入）	日墨	沿岸漁業普及(I)実技	メキシコ	(1)	340		
（〃）	日墨	水産技術	メキシコ	(3)	240		
	日墨	消化器内視鏡	メキシコ	4	120		
	日墨	水産技術	メキシコ	1	*1 55		
	日墨	コンピューター採用によるデジタル技術	メキシコ	7	*2 70		
	日墨	漁撈	メキシコ	1	*3 30		
	日墨合計	4(2)コース		13(4)			

*1 昭和59年度55 H＋昭和60年度115 H＝170 H

*2 昭和59年度70 H＋昭和60年度100 H＝170 H

*3 昭和59年度30 H＋昭和60年度115 H＝145 H

受入形態	研修コース名（研修科目）	国名	人数	日本語講習時間数 集中A	一般B	A＋B
単発	イカの処理加工	ウルグアイ	1	125		
単発	歯科麻酔	インドネシア	1	215		
単発	消化器内視鏡	パラグアイ	1	100		
単発	経営管理	中国	19	40		
単発	インダストリアル・デザイン	韓国	1	150		
単発	義補装具製作技術	韓国 他3ケ国	4	100		
単発	集中治療医学	中国	3	120		
単発	組織化学・細胞生物学	インドネシア	1	120		
単発	電気通信（伝送）	コスタリカ	1	45		
単発	工作機械デザイン	パラグアイ	1	625		
単発	鉱山の安全と監督	中国	2	105		
単発	小児ネフローゼ	ウルグアイ	1	285		
単発	特許審査	中国	3	190		
単発	火災現場調査技術	中国	2	90		
単発	財政学	韓国	1	110		
単発	森林害虫	中国	1	240		
単発	自動車整備	モルジブ	2	240		
単発	医療用品の放射線滅菌	中国	2	95		
単発	特研究開発技術	インドネシア 他2ケ国	9	190		
単発	消化器内視鏡	ペルー	1	95		
単発	科学技術情報管理	中国	1	85		
単発	養鶏	スリランカ	1	190		
単発	研究開発技術	タイ	1	75		
単発	養蜂	パラグアイ	1	290		
単発	植物描写	マレーシア	1	315		
単発合計	25コース		62			

受入形態	研修コース名（研修科目）	国名	人数	日本語講習時間数 集中A	一般B	A＋B
（前年度受入） C/P	小児看護	インドネシア	(2)	75		
C/P	小型機械化農業	フィジー	1	90		
C/P	職業訓練	インドネシア	7	265		
C/P	コンピュータ・データ処理	インドネシア	5	115		
C/P	工業統計	インドネシア	1	115		
C/P	水産養殖	フィジー	1	80		
C/P	製パン技術	ケニア	1	360		
C/P	ジョモケニヤッタ　電気通信技術	ケニア	1	140		
C/P	ジョモケニヤッタ農業工学	ケニア	1	175		
C/P	作物保護	インドネシア	1	105		
C/P	職業訓練	シンガポール	2	225		
C/P	日本語研修	セネガル	1	320		
C/P	技術情報管理	マレーシア	1	175		
C/P	金型製作	マレーシア	1	175		
C/P	家畜衛生	インドネシア	2	125		
C/P	適性技術研究開発センター	スリランカ	2	125		
C/P	動物医薬品検定	インドネシア	4	125		
C/P	臨床解剖	パラグアイ	1	125		
C/P	家畜栄養研究	パラグアイ	1	210		
C/P	人工受精	パラグアイ	1	140		
C/P	ウイルス培養技術	タイ	1	95		
C/P	高分子	中国	1	95		
C/P	漁業経済開発	ホンジュラス	1	95		
C/P	農業普及	タイ	1	80		
C/P	冶金研究開発	ビルマ	2	205		
C/P	バイオマスエネルギー研究開発	インドネシア	2	155		
C/P	魚病研究	チリ	1	70		
C/P	野菜作物研究	ホンジュラス	1	170		
C/P	電気装備・電気溶接	パラグアイ	2	350		

受入形態	研修コース名（研修科目）	国名	人数	日本語講習時間数 集中A	一般B	A＋B
C/P	製薬研究開発	ビルマ	3	95		
C/P	コンピュータ・工業電子・工作機械	メキシコ	3(2)	190 *1		
C/P	職業訓練	パナマ	3(1)	315 *2		
C/P	経営管理	中国	4	270		
C/P	プレス加工	マレーシア	1	175		
C/P	職業訓練	インドネシア	7	240		
C/P	金属鋳造技術	フィリピン	2	120		
C/P	家畜衛生	パラグアイ	1	190		
C/P	職業訓練	ペルー	2	285		
C/P	細菌学・免疫学・血液学	ガーナ	2	95		
C/P	寄生虫学	パラグアイ	1	120		
C/P	神経精神病学	ペルー	1	120		
C/P	家畜衛生	タイ	2	95		
C/P	鉱山地質学・経済地質学	ボリビア	2	95		
C/P	微生物学	ケニア	1	70		
C/P	職業訓練	セネガル	2	1,125		
C/P	細胞媒介免疫学	コロンビア	2	135		
C/P	地域看護・小児看護	タイ	2	285		
C/P	職業訓練指導員養成（上級）	マレーシア	7	240		
C/P	薬品品質管理	インドネシア	3	95		
C/P	バイオテクノロジー	フィリピン	2	95		
C/P	発電工学	ケニア	3	70		
C/P	小規模工業普及員養成	インドネシア	5	330		
C/P	籐・竹・木材の加工技術	フィリピン	4	140		
C/P	養蚕開発	インドネシア	1	235		
C/P	職業訓練	タイ	2	315		
C/P	作業療法	タイ	1	315		

*1　1名は120 H，2名は190 H

*2　2名は285 H，1名は315 H

受入形態	研修コース名（研修科目）	国名	人数	日本語講習時間数 集中A	一般B	A＋B
C/P	漁業経済	セネガル	1	240		
C/P	建築士・土質工学	フィリピン	1	240		
C/P	既製服	ネパール	2	240		
C/P	冷房装置システム	フィリピン	1	240		
C/P	電子工学	フィリピン	1	240		
C/P	自動車整備	フィジー	1	145		
C/P	溶接	パラグアイ	1	80		
C/P	家畜用ツベルクリンの製造技術	パラグアイ	1	50		
C/P	金型デザイン・製作	マレーシア	2	305		
C/P	職業訓練	インドネシア	2	305		
C/P	造林	パラグアイ	1	305		
C/P	養鶏	スリランカ	1	190		
C/P	バイオマスエネルギー研究開発	インドネシア	1	160		
C/P	冷凍・空調	マレーシア	1	105		
C/P	微生物学・環境科学	タイ	2	95		
C/P	微生物学	インドネシア	1	95		
C/P	野菜生産	インドネシア	1	45		
C/P	野菜生産	タンザニア	1	45		
C/P	中日友好病院	中国	14	190		
C/P	地域精神衛生	ペルー	1	455		
C/P	デジタル電子	シンガポール	1	190		
C/P	初期健康管理	タイ	1	75		
C/P	養蚕開発	インドネシア	2	305		
C/P	植物病理学	インドネシア	1	120		
C/P	自動車工学	ケニア	1	120		
C/P	無機化学	インドネシア	2	120		
C/P	家具設計	パラグァイ	1	305		
C/P	冷凍機械	ソマリア	1	120		
C/P合計	84(1)コース		163(2)			

受入形態	研修コース名（研修科目）	国名	人数	日本語講習時間数 集中A	一般B	A＋B
国際	豚コレラ・ワクチン	ビルマ	1	125		
国際	船舶エンジン	タイ	1	115		
国際	いけす養殖	フィリピン	1	105		
国際	淡水漁養殖	フィリピン	1	185		
国際合計	4コース		4			

受入形態	研修コース名（研修科目）	国名	人数	日本語講習時間数 集中A	一般B	A＋B
GG	職業訓練指導員養成課程	シンガポール	2	1,120		
GG	東方政策産業技術研修	マレーシア	4	45		
GG	穀物管理	韓国	1	110		
GG合計	3コース		7			

受入形態	研修コース名（研修科目）	国名	人数	日本語講習時間数 集中A	一般B	A＋B
TIC合計	130(3)コース		367(6)			

（　）内の数字は前年度からの継続分で外数

(2) 八王子国際研修センター

受入形態	研修コース名（研修科目）	国名	人数	日本語講習時間数 集中A	一般B	A＋B
集団	職業訓練指導員養成コース	タイ他	50	300	0	300

(3) 大阪国際研修センター

受入形態	研修コース名（研修科目）	国名	人数	日本語講習時間数 集中A	一般B	A＋B
集団	金型工作技術コース	中国他	5	280	—	280
集団	上級技能者訓練コース	エジプト他	10	85	60	145
集団	貨幣徽章製造及び分析・精錬コース	インド他	5	110	50	160
集団	医療・放射線技術コース	タイ他	8	124	48	172
合計	4コース		28			

(4) 名古屋国際研修センター

受入形態	研修コース名（研修科目）	国名	人数	日本語講習時間数 集中A	一般B	A＋B
集団	工業開発計画	アルゼンチン他12ケ国	15	100.0	40	140.0
集団	釉着彩	バングラデシュ他6ケ国	7	97.5	40	137.5
集団	金属表面処理	ビルマ他6ケ国	8	95.0	40	135.0
集団	綿織布	ブラジル他9ケ国	11	100.0	40	140.0
集団	窯業	バングラデシュ他7ケ国	8	232.0	—	232.0
集団	溶接	バングラデシュ他10ケ国	11	300.0	—	300.0
集団	養鶏	ビルマ他4ケ国	8	100.0	—	100.0
集団	タイル製造	ビルマ他6ケ国	7	95.0	40	135.0
集団	鋳造	ブラジル他10ケ国	11	97.5	40	137.5
集団	中小企業振興指導者訓練	ビルマ他14ケ国	16	102.5	40	142.5
集団	冶工具	イラク他6ケ国	7	100.0	40	140.0
集団	耐火物	ビルマ他6ケ国	8	102.5	40	142.5
集団	金属加工	アルゼンチン他10ケ国	11	97.5	40	137.5
集団	木材工業機械	アルゼンチン他9ケ国	11	100.0	40	140.0
集団	熱処理	ブラジル他5ケ国	6	97.5	—	97.5
集団	電気製鋼	ブラジル他8ケ国	9	80.0	—	80.0
集団合計	16コース		154			

（前年度受入）

(5) 筑波インターナショナルセンター

受入形態	研修コース名（研修科目）	国名	人数	日本語講習時間数 集中A	一般B	A＋B
集団	稲作一般	ボリビア他	(1)	20.0	102.0	122.0
集団	沿海鉱物	ブラジル他	11	45.0	31.5	76.5
集団	稲作（専修）	タイ他	9	50		50
集団	稲作機械化	キューバ他	10	45	12	57
集団	かんがい排水	マレーシア他	13	50	10.5	60.5
集団	野菜生産	中国他	11	50		50
集団	野菜採種	アルゼンチン他	10	50		50
集団	稲作（一般）	ビルマ他	12	35	54	89
集団	農業機械設計	フィリピン他	10	25	54	79
単発	水管理	ビルマ他	7	25	69	94
合計	9(1)コース		93(1)			

(6) 神奈川国際水産研修センター

受入形態	研修コース名（研修科目）	国名	人数	日本語講習時間数 集中A	一般B	A＋B
集団	沿岸漁業普及（実技）	フィジー他	16	50	78	128
集団	漁業協同組合	ボリビア他	8	50	78	128
集団	沿岸漁業普及（理論）	ブラジル他	11	45	83	128
集団	養殖一般	インドネシア他	7	45	83	128
集団	小型漁船の船体機関保守	コスタリカ他	6	45	83	128
日墨	沿岸漁業普及（実技）	メキシコ	(1)	50	78	128
C/P	水産技術	モーリタニカ	1	50	78	128
単発	沿岸漁業普及（実技）	シエラレオネ	1	50	78	128
単発	小型漁船エンジン保守技術	カンビア	1	45	83	128
合計	8(1)コース		51(1)			

（前年度受入）

(7) 兵庫インターナショナルセンター

受入形態	研修コース名（研修科目）	国名	人数	日本語講習時間数		
				集中A	一般B	A＋B
集団	稲病害虫防除コース	ビルマ 他	12	60	85	145
集団	貿易実践指導者コース	タンザニア 他	12	37.5	16	53.5
集団	水産食品加工コース	フィリピン 他	9	70	20	90
C/P	ネパール・トリブバン大学医学教育	ネパール	1	60	30	90
合計	4コース		34			

(8) 沖縄国際センター

受入形態	研修コース名（研修科目）	国名	人数	日本語講習時間数		
				集中A	一般B	A＋B
集団	航海技術	インドネシア 他	12	300		300
集団	公衆衛生	シンガポール 他	5	180		180
単発	(特)サトウキビ栽培	マレーシア 他	6	180		180
単発	(特)臨床看護	フィリピン 他	7	165		165
単発	(特)熱帯農林資源の有効利用	タイ 他	6	96		96
集団	視聴覚技術	フィリピン 他	10	120		120
合計	6コース		46			

(9) 東北支部

受入形態	研修コース名（改修科目）	国名	人数	日本語講習時間数		
				集中A	一般B	A＋B
集団	家畜人工受精*	パラグアイ 他	6	40	—	40
集団	選鉱製錬*	ボリビア 他	10	100	—	100
合計	2コース		16			

*いずれもTICより日本語講習を継続して実施した。

(10) その他

受入形態	研修コース名（研修科目）	国名	人数	日本語講習時間数		
				集中A	一般B	A＋B
単発	オイスカ一般農業(1)	バングラデシュ 他2ケ国	10	284	—	284
単発	オイスカ一般農業(2)	バングラデシュ・スリランカ	11	373	—	373
合計	2コース		21			

3. 形態別、日本語研修受講者実績

年度		58年度				59年度			
人数 / 形態		集中講習参加者数 (人) / 受入数	比率 (%)	一般講習参加者数 (人) / 受入数	比率 (%)	集中講習参加者数 (人) / 受入数	比率 (%)	一般講習参加者数 (人) / 受入数	比率 (%)
集団	集団	479 / 2,385	20.5	1,443 / 4,059	35.5	544 / 2,245	24.2	1,495 / 3,994	37.4
	日墨	49 / 50	98.0			13 / 16	81.3		
	小計	528 / 2,385	22.1			557 / 2,261	24.6		
個別	単発	95 / 502	18.9			118 / 553	21.3		
	カウンターパート	147 / 807	18.2			165 / 874	18.9		
	国際機関	1 / 147	0.7			4 / 175	2.3		
	小計	243 / 1,456	16.7			287 / 1,602	17.9		
マレイシア東方政策		0※ / 218	—			0※ / 131	—		
計		771 / 4,059	19.0	1,443 / 4,059	35.5	844 / 3,994	21.1	1,495 / 3,994	37.4
総計		2,214 / 4,059 (54.5)				2,339 / 3,994 (58.6)			

（注１） マレイシア東方政策の研修員は、日本国内では日本語研修を受講しないが、来日前、マレイシアで６ケ月間の日本語研修を受け、研修は日本語で行なわれている。

（注２） 今回の統計により一般講習を集中講習の補講として受講した者については、集中講習を継続して受講したとみなし、一般講習受講者数には含めない形で集計した。

4. 講習期間別、日本語研修受講者実績

年度別合計	昭和58年度			昭和59年度		
講習形態別中計	2,214 (人)			2,339 (人)		
	集中講習		一般講習	集中講習		一般講習
	771		1,443	844		1,495
受入形態別小計	集団	個別		集団	個別	
	528	243	1,443	557	287	1,495
100時間以下	1,740			1,791		
	297			296		
	220	77	1,443	208	88	1,495
101～200時間	240			323		
	240			322		
	163	77		223	100	
201～300時間	194			174		
	194			174		
	124	70		110	64	
301～400時間	24			45		
	24			45		
	16	8		16	29	
401～500時間	6			1		
	6			1		
	5	1		0	1	
501～1,200時間	10			5		
	10			5		
	0	10		0	5	
平均講習時間数	174時間			161時間		

5. オリエンテーション

(1) 東京インターナショナルセンター

A プログラム

日	時間	内容	講師
第1日 (月)	10:00 ～ 12:00	所長挨拶	
		ＪＩＣＡ事業説明	ＴＩＣ業務課
	13:30 ～ 14:15	ＪＩＣ業務等説明	ＴＩＣ業務課
	14:15 ～ 16:15	よりよい滞日生活のために	国際交流サービス協会専務理事・横山総三、同協会常務理事・吉田　弘
第2日 (火)	10:00 ～ 12:00	日本の文化史	早稲田大学教授・池田百合子、都立大学文学部助手・坂本美樹雄
	13:30 ～ 14:30	日本の経済協力	国際協力推進協会専務理事・松本　洋、法政大学講師・佐藤知子、国際開発センター研究員・小浜裕久
	14:30 ～ 16:30	日本の人文地理	青山学院大学経済学部教授・西岡久雄、同大学経済学部教授・小林　望
第3日 (水)	10:00 ～ 12:00	日本の経済	経団連常任理事・三好正也、経団連経済協力部・太田　元、経団連国際協力部・小池一雄、他
	14:00 ～ 16:00	日本の行政機構	東海大学教授・山口房雄、同大学教授・宇都宮深志
	16:15 ～ 17:15	日本紹介 Eilm 上映	映写技師、志水淑子、他
第4日 (木)	10:00 ～ 12:00	日本の教育	東京工業大学助教授・原　芳男、㈳国際交流サービス協会・吉田　弘
	14:00 ～ 16:00	日本の言葉	元上智大学講師・森　清
第5日 (金)	9:00 ～ 13:00	都内見学（バス・ツアー、明治神宮・尾崎記念公園・皇居）	金子文男、吉田照子、早川宗仁、早川啓子、長能宏子、河原完治、飯田典正、西尾操子

B 実 施 状 況

実施回	実施期間	参加人数	実施対象コース （実数）	備考
第 1 回	4/ 9～ 4/13 (月) (金)	122	家族計画医学保険(10)、貨幣及び勲章製造(5)、リモートセンシング(12)、微生物病研究(7)、家畜人工受精(6)、上級技能者訓練(9)、金型工作技術(5)、地方行政(13)、犯罪防止(14)、酵素工学(5)、電話交換〔Ⅰ〕(15)、エジプト漁業解析(1)、エジプト・環境保全(1)、タイ・雑草研究(1)、タイ・畑作雑草除草(1)、ブラジル・土壌学(1)、浅海養殖(3)、キューバ・気管視鏡(1)、ブラジル・消化器内視鏡(1)、インドネシア・歯科麻酔(1)、インドネシア・職訓(4)	
第 2 回	4/16～ 4/20 (月) (金)	15	農業普及(15)	
第 3 回	4/30～ 5/ 4 (月) (金)	70	国際電信電話(11)、港湾工学(15)、衛星通信(11)、測量技術(11)、搬送電話(15)、中国・薬品包装(1)、イラク・光ファイバー(2)、シンガポール・電子技術(2)、ビルマ・地球局設備(1)、エジプト・コンピューター科学(1)	4/30(月) 祝日 5/ 3(木) 祝日
第 4 回	5/ 7～ 5/11 (月) (金)	53	水路測量(9)、鉄鋼材試験校正技術(9)、火力発電(8)、建設機械整備(10)、水力発電(8)、養鶏(7)、パキスタン・機械加工技術開発(1)、タイ・種子病理学(1)	
第 5 回	5/14～ 5/18 (月) (金)	63	鉄道線保守改良(9)、貿易振興セミナー(15)、沿岸鉱物資源探査(11)、農業協同組合(22)、フィジー・電子探査機器操作(1)、エジプト・電車の運営管理(2)、タイ・非金属鉱物資源開発(2)、スーダン・伝染病(1)	
第 6 回	5/28～ 6/ 1 (月) (金)	51	植物遺伝資源(9)、廃棄物処理(11)、家畜衛生研究(10)、工業標準化(16)、メキシコ・石油高分子科学(1)、シンガポール・水産加工(1)、ビルマ・テレビ修理(1)、ビルマ・冷蔵庫修理(1)、ビルマ・豚コレラワクチン(1)	
第 7 回	6/ 4～ 6/ 8 (月) (金)	13	稲病害虫防除(12)、インドネシア・農業研究(1)	
第 8 回	6/11～ 6/15 (月) (金)	50	消防行政(11)、結核対策(22)、計量標準(15)、ボリビア・血管造影装置技術(1)、タイ・高速道路施設維持管理(1)	

実施回	実施期間	参加人数	実施対象コース （実数）	
第 9 回	6/18～ 6/22 (月) (金)	73	都市交通(12)、農業機械整備(14)、電話線路技術(17)、上水道施設(13)、生活改善普及技術(9)、シエラ・レオーネ・浄水技術(1)、タイ・輸出品検査(1)、イラク・エレレベーター技術(2)、イラク・電機及び電子産業(1)、インドネシア・作物保護(2)、タイ・造林(1)	
第１０回	6/25～ 6/29 (月) (金)	25	麻薬犯罪取締(19)、インドネシア・農業研究(2)、ホンジュラス・農業開発(1)、シンガポール・電子工学(2)、インドネシア・作物保護(1)	
第１１回	7/ 2～ 7/ 6 (月) (金)	50	家族計画組織計動(17)、漁業協同組合(5)、航海技術(5)、沿岸漁業普及(14)、イラク・冷凍空調技術(2)、エジプト・米作機械化(1)、ケニア・地図利用(2)、ケニア・地図作成(1)、ブラジル・船舶流体力学(1)、モリタニア・水産技術(1)、パラグアイ・内視鏡(1)	
第１２回	7/ 9～ 7/13 (月) (金)	38	農地水資源開発(17)、公衆衛生技術者(5)、ペルー・造林(2)、サトウキビ栽培(5)、メキシコ・波光形操作(1)、イラク・空港建設改良(3)、ブラジル・原子力応用医学(1)、韓国・インダストリアルデザイン(1)、タイ・潤滑油製造(3)	
第１３回	7/16～ 7/20 (月) (金)	33	鉄道車両(8)、マイクロウエイブ通信技術(16)、タイ・食物保護及び害虫対策(1)、タイ・工業エネルギー保全(2)、タイ・省エネルギー計画(1)、ブラジル・害虫研究(1)、フィリピン・沿岸環境調査(1)、フィリピン・カキ養殖(1)、ナイジェリア・漁業共同組合(1)、マレイシア・空港管理(1)	
第１４回	7/23～ 7/27 (月) (金)	52	ラジオ放送技術(7)、農林統計(15)、河川工学(13)、テレビ放送技術(11)、フィジー・海老養殖(1)、ブラジル・土壌微生物(1)、インドネシア・放送管理(1)、インドネシア・テレビ放送技術(3)	
第１５回	7/30～ 8/ 3 (月) (金)	34	選鉱製錬(9)、電波監視(9)、バングラデシュ・家畜栄養(1)、スリランカ・適性技術研究開発(1)、タイ・農	

実施回	実施期間	参加人数	実施対象コース （実数）	備考
			業普及(1)、インドネシア・ウイルス学(1)、インドネシア・実験動物(1)、インドネシア・細菌学(2)、タイ雑草生態学(1)、イラン・都市交通(4)、タイ・電話監視(1)、インドネシア・家畜衛生(2)	
第１６回	8/ 6～ 8/10 (月) (金)	34	教育テレビ番組Ⅰ(14)、電話交換技術(10)、補装具製作(3)、インドネシア・ワークショップ機械(1)	
第１７回	8/13～ 8/17 (月) (金)	29	都市計画(12)、繊維工学(7)、フィリピン・活性炭工業振興(2)、フィリピン・鉱物分析(1)、シエラレオーネ・医療放射線技術(2)、マレイシア・工具(3)、チリ・水産加工(1)、マレイジア・東方政策(1)	
第１８回	8/20～ 8/24 (月) (金)	74	橋梁工学(15)、鉱山(13)、インダストリアルデザイン(6)、癌対策(10)、地下水資源開発(8)、韓国・山火事対策(1)、ブラジル・小経木利用(1)、ブラジル・流域管理気象(1)、ブラジル・流域管理森林(1)、インドネシア・家族計画(3)、ネパール・野菜生産(1)、フィリピン・建設技術(2)、タイ・造林(1)、ビデオ(7)、エジプト・タイル製造(1)、インドネシア・ガス(3)	
第１９回	8/27～ 8/31 (月) (金)	125	無線通信(9)、林業林産研究(10)、電機事業経営(10)、航路標準(11)、国際テレックス通信(9)、衛星通信(14)、籾処理精米加工(15)、空港セミナー(9)、精神薄弱福祉(10)、貿易実践指導者(12)、中国・計量自動測定(1)、ペルー・免疫病理学(1)、ホンジュラス・漁業開発(1)、インドネシア・生物学(1)、チリ・鉱床学(1)、中国・高分子研究(1)、ウルグアイ・病理学(1)、ウルグアイ・内視鏡(2)、タイ・労災リハビリテーション(2)、タイ・ウイルス培養技術(1)、パラグアイ・人工受精(1)、フィリピン・気象通信システム(2)、フィリピン・テレックス通信(1)	
第２０回	9/ 3～ 9/ 7 (月) (金)	119	消化管病理学(14)、造船経営管理(10)、工場所有権制度(14)、アイソトープ放射線(10)、森林造成技術者(10)、犯罪防止(10)、建設施工(8)、地熱エネルギー(10)、イラク・運送計画統計(2)、インド・日本脳炎ワクチン(1)、ブラジル・鉱山公害防止(2)、ネパール・放射線学(1)、ネパール・耳鼻咽喉学(1)、ネパール・手術管理集中(1)、中国・集中治療医学(1)、ユーゴースラヴィア・血管神経外科(1)、ユーゴースラヴィア・生物工学(1)、マレイシア・企業計画(1)、バングラデシュ・ディーゼルポンプ(3)	
第２１回	9/10～ 9/14 (月) (金)	125	地震工学(22)、海運経営実務(11)、配電技術(7)、税関行政(17)、化学技術研究(8)、循環器病対策(5)、国家行政(14)、下水道技術(11)、雇用開発(11)、インドネシア・発酵(2)、タイ・昆虫学(1)、臨床看護技術(7)、タイ・皮膚病学(1)、コスタリカ・電気通信(1)、ビルマ・冶金分析(1)、フィリピン・犯罪鑑識(1)、タイ・海洋物理学(1)、チリ水産養殖(2)、タイ・水産技術(1)、ビルマ・精練技術(1)	
第２２回	9/17～ 9/21 (月) (金)	22	輸出入食品検査(7)、海洋保全(4)、プラスチック(8)、フィリピン・貝及び海草養殖(1)、インドネシア・船員教育(1)、エジプト・天文学(1)	
第２３回	9/25～ 9/29	82	一般統計(25)、腎不全対策(13)、中近東電力(5)、自動データー処理(11)、メキシコ・家畜衛生(2)、パラグァイ・昆虫学(1)、フィリピン・イケス養殖(1)、ウルグアイ・小児ネフローゼ(1)、ネパール・水力発電(1)、ザンビア・新生児医学(1)、マレイシア・コンピューターシステム(1)、熱帯医学研究(5)、サンビア・新生児集中看護(1)、パラグァイ・農業機械(1)、パラグアイ・溶接(1)、韓国・鉱山防災(2)、フィリピン・鉱物分析(1)、タイ・植物栄養土壌肥料(1)、インドネシア・食物放射利用(1)、コスタリカ・電子顕微鏡(1)、オマーン・水門観測(2)、ホンデュラス・野菜作物研究(1)、	9/24(月)祝日

実施回	実施期間	参加人数	実施対象コース （実数）	備考
			マレイシア・農業機械化(1)、スーダン、冶工具生産(1)、フィリピン・生態遺伝学(1)	
第２４回	10/ 1～10/ 5 (月) (金)	104	労働安全衛生行政(10)、貿易振興〔B〕(13)、ハイウェーセミナー(13)、プラントメインテナンス(12)、環境技術(12)、防災技術(11)、気象学(7)、結核対策(6)、イエメン・レントゲン技術〔結核対策〕(1)、タイ・看護教育管理(2)、タイ・環境技術〔水質保全〕(1)、ビルマ・海草生物(1)、熱帯農林学(4)、ユーゴスラヴィア・カーボンファイバー技術(1)、マレイシア・道路交通工学(1)、ビルマ・マイクロフィルム技術(2)、ペルー・造林(1)	
第２５回	10/ 8～10/13 (月) (金)	84	港湾セミナー(17)、観光振興(19)、船員教育行政(7)、鉄道電化(13)、フィリピン・灌漑維持管理(1)、フィリピン・灌漑排水(1)、フィリピン・灌漑排水計画(1)、灌漑排水(4)、タイ・灌漑(1)、タイ・農業共同組合振興(2)、アルゼンチン・電子科学(1)、ブラジル・工業開発調査(4)、マレイシア・電気的計測(3)、タイ・農業機械(1)、中国・集中医療(3)、インドネシア・地域保険(1)、インドネシア・灌漑排水(2)、タイ・灌漑パッケージ(2)、トンガ・組織病理学(1)	10/10(水)祝日
第２６回	10/15～10/19 (月) (金)	88	借款手続(15)、総合都市交通網計画(12)、婦人関係行政セミナー(10)、国土開発(9)、電話網計画設計(18)、鉄道電化(1)、インドネシア・職訓(7)、マレイシア・水資源(1)、インドネシア・送電網整備(3)、マレイシア・港湾設備(1)、タイ・地域都市開発計画(1)、タイ・地域都市開発(1)、ブラジル・免疫学(2)、メキシコ・石油触媒科学(1)、インドネシア・醗酵研究(1)、タイ・都市排水対策(2)、フィリピン・電話網設計(1)、リベリア・電話網設計(1)、タイ・水質試験実験室の運営(1)	

実施回	実施期間	参加人数	実施対象コース （実数）	備考
第２７回	10/22～10/26 (月) (金)	24	救難防災(3)、土質及び基礎工学(11)、開発エコノミスト(5)、マレイシア・工業開発計画(1)、ブラジル・土壌保全(1)、インドネシア・森林造成(2)、タイ・土質及び基礎工学(1)	
第２８回	10/29～11/ 2	29	住宅建設(14)、タイ・ワクチン品質管理方法(1)、タイ・ウィルス学及び遺伝工学(1)、ガーナ・免疫学(1)、ガーナ・細菌学(1)、ペルー自動車修理(1)、ペルー一般機械(1)、パラグァイ・家畜衛生(1)、フィリピン・鉄鋼加工(1)、ビルマ・語学機器の操作技術(6)、インドネシア・鉄道建設(1)	
第２９回	11/ 5～11/ 9 (月) (金)	27	データ通信技術(12)、海洋物理調査(9)、インドネシア・上水道(3)、トンガ・組織病理学(1)、エジプト・空港セミナー(1)、マレイシア・養殖(1)	
第３０回	11/26～11/30 (月) (金)	17	海老養殖(6)、タイ・木材下線(2)、インドネシア・薬品品質管理(3)、セネガル・電子(1)、セネガル・機械(1)、コロンビア・免疫学(2)、タイ・地域看護(1)、タイ・小児看護(1)	
第３１回	12/10～12/14 (月) (金)	16	医療放射線技術(8)、ユーゴスラヴィア・地震工学(1)、インドネシア・養産開発(1)、中国・火災現場調査技術(2)、フィリピン・木工機械保守及び職場保全(1)、フィリピン・木工(1)、フィリピン・竹工芸(1)、フィリピン・籐工芸(1)	
第３２回	1/ 7～ 1/11 (月) (金)	24	船舶技術(15)、シンガポール・冷凍空調技術(1)、韓国・財政学(1)、ペルー・超音波診断(1)、フィリピン・かきの浄化(1)、ケニヤ・農業(3)、イラク・ラジオテープレコーダ調整(1)、イラク・冷却及び空調(1)	
第３３回	1/14～ 1/19 (月) (金)	145	中小企業対策(9)、ガラス工学(7)、養殖一般(7)、小型漁船保守(6)、コンテナ埠頭整備計画(9)、沿岸漁業普及理論(9)、行政情報システム(14)、早期胃癌診断(15)、鉄道信号(6)、国際データ通信(10)、国際電話交換(11)、	

実施回	実施期間	参加人数	実施対象コース （実数）	備考
			ビルマ・橋梁技術(1)、パラグァイ・家畜用ツベルクリン製造(1)、パラグァイ・養蜂(1)、ヴェネズエラ・消化器系癌対策(1)、マレイシア・地域総合開発(1)、スリランカ・ろう教育(1)、アルジェリア・温室野菜栽培(2)、フィリピン・フィリピン大学カウンターパート(2)、中国・放射線メッキ(2)、フィジー・自動車整備(1)、パラグァイ・溶接(1)、ネパール・既製服〔紳士〕(2)、セネガル・漁業経済(1)、ブラジル・港湾工学(1)	
第３４回	1/21～1/25 (月)(金)	72	建設技術(15)、自動車技術行政(8)、教育テレビジョンⅡ(8)、包装技術(10)、テレビジョン放送技術Ⅱ(13)、フィリピン・土壌調査(1)、バングラデシュ・循環器病(3)、エジプト・航行安全調査(2)、フィリピン・ブロック(2)、インドネシア・火山砂防(2)、ユーゴスラヴィア・ロボット工学(2)、マレイシア・潮位測定(1)、メキシコ・テレビ放送番組(1)、シンガポール・テレビ番組技術(1)、タイ・テレビ番組製作(1)、シンガポール・テレビビデオ番組製作(1)、パラグァイ・テレビ放送技術(1)	
第３５回	1/28～2/1 (月)(金)	29	中近東石油科学(8)、研究開発協会(3)、インドネシア・研究上の運営開発(1)、タイ・環境科学(1)、タイ・微生物学(1)、タンザニア・野菜生産(1)、マレイシア・冷房空調(1)、中国・品質管理システム(1)、フィリピン・治山(1)、中国・食品工業(2)、インドネシア・職訓(2)、インドネシア・農業(2)、マレイシア・金型(2)、パラグァイ・植林(1)、フィリピン・デジタル多重システム(2)	
第３６回	2/4～2/8 (月)(金)	48	犯罪防止〔上級〕(17)、環境行政(11)、視聴覚技術(10)、エジプト・電気保守操作(2)、バングラデシュ・橋梁技術(2)、インドネシア・自然開発(1)、インドネシア・広報活動(2)、インドネシア・水力発電(2)、インドネシア・住宅開発(1)	
第３７回	2/12～2/16 (月)(金)	70	稲作〔専修〕(9)、野菜採種(10)、野菜生産(11)、稲作機械化(10)、都市整備(8)、灌漑排水(13)、水管理(7)、ペルー・地下水(1)、ペルー・貯水及びポンプ(1)	2/11(月)祝日
第３８回	2/25～3/1 (月)(金)	16	ビルマ・総合病院(4)、インドネシア・養蚕開発(2)、フィリピン・腸内細菌(1)、インドネシア・植物病理学(1)、ブラジル・流域管理土壌保全(1)、タイ・水資源開発(1)、フィリピン・理科教育(1)、ペルー・消化器内視鏡(1)、スーダン・耳鼻咽喉科(1)、スーダン・血液、腹膜透析と移植の看護(1)、モンゴル・乳業(2)	
第３９回	3/4～3/8 (月)(金)	17	鉱山保安(9)、フィリピン・淡水魚養殖(1)、シンガポール・労働安全衛生(1)、中国・科学技術情報管理(1)、インドネシア・農業研究(1)、パラグァイ・科学設計(1)、タイ・コンピューター技術及び建築(3)	
第４０回	3/11～3/15 (月)(土)	23	稲作〔一般〕(12)、農業機械設計(7)、タイ・教育テレビ番組(1)、ケニア・鍛造技術(1)、エジプト・米作機械(1)、パラグアイ・森林管理(1)	
第４１回	3/25～3/29 (月)(金)	15	消化器内視鏡(4)、ビルマ・橋梁技術(3)、コロンビア・水力発電(1)、エジプト・経済計画(1)、ペルー・天体物理学におけるソフトウェア(1)、フィリピン・海老ふ化所システム(1)、パラグアイ・雑草学(1)、タイ・モザイク生産技術(2)、メキシコ・コンピューター採用デジタル通信(1)	
合計		2,200人		

(2) 八王子国際研修センター

A プログラム

プログラム	講師名
1. JICA・HITC概要説明	センター職員
2. 日本事情講義	
(1) よりよい滞日生活のために	横山総三、三保 元、吉田 弘
(2) 日本の教育	原 芳男
(3) 日本の行政機構	山口房雄
(4) 日本の文化史	坂本美樹雄
(5) 日本の経済	首藤信彦、岡山 隆、佐藤知子
(6) 日本のことば	三保 元
(7) 日本的経営	中山裕史
(8) 日本の文化・社会・慣習	ポール・リーチ
3. 「ことばと生活」講義	花村和子、真上章子、星野和子
4. 都内見学	インストラクター
多摩ニュータウン	(西尾操子、河原完治、吉田照子、浜中初枝)
明治神宮	
TIC	
霞ケ関官庁街	
東京タワー(雨天の際はNHK)	
5. 日本紹介映画	映写技師
「日本の四季」	田畑 まゆみ
「日本のスポーツ」	松岡 由美子
「新幹線の旅」	
「課長」	
「今日の日本」	

B 実施状況

実施回	参加人数	対象コース
第1回 (4/3 − 4/7)	15	衛生行政セミナー
第2回 (4/10 − 4/13)	46	職業訓練指導員養成コース
第3回 (5/8 − 5/11)	22	監督者訓練セミナー テレビ放送管理コース
第4回 (6/5 − 6/8)	15	開発エコノミストコース
第5回 (6/25 − 6/30)	13	会計検査セミナー
第6回 (7/10 − 7/13)	10	労働統計セミナー
第7回 (8/28 − 8/31)	14	職業訓練セミナー
第8回 (9/4 − 9/7)	24	一般租税セミナー
第9回 (10/30 − 11/2)	10	労使関係行政セミナー
第10回 (1/22 − 1/25)	9	バストラック整備技術コース
第11回 (2/13 − 2/16)	6	大気保全コース
第12回 (2/19 − 2/22)	15	中近東職業セミナー
合計	199人	

(3) 名古屋国際研修センター

A プログラム

プログラム	講師名
1. JICA・NITC概要説明	センター職員
2. 日本文化と歴史	南山大学教授　西脇　博
3. 技術移転、日本から何を学ぶか	中京大学教授　日比野　省三
4. 日本の行政と経済	南山大学教授　明石陽至
5. 健康管理、火災予防等	嘱託医師　岩井鐵三、名東消防署職員
6. 日本の現況について	東海テレビキャスター・西沢信正
7. 見学	トヨタ自工、県産業貿易館、名古屋港等

B オリエンテーション実施状況

実施回	期間	参加人数	集団コース名
第1回	4/6 − 5/11	11	綿織布技術集団研修コース
第2回	4/6 − 5/11	15	工業開発計画実務集団研修コース
第3回	4/6 − 5/11	8	金属表面処理技術集団研修コース
第4回	4/6 − 5/11	7	釉着彩技術集団研修コース
第5回	4/6 − 6/11	8	窯業技術集団研修コース
第6回	4/6 − 7/10	10	溶接技術集団研修コース
第7回	5/11 − 6/14	8	養鶏集団研修コース
第8回	8/22 − 9/26	7	タイル製造技術集団研修コース
第9回	8/22 − 9/26	11	鋳造技術集団研修コース
第10回	10/3 − 11/5	8	耐火物製造技術集団研修コース
第11回	10/3 − 11/6	11	木材工業機械集団研修コース
第12回	10/3 − 11/9	11	金属加工技術集団研修コース
第13回	10/3 − 11/5	7	治工具生産技術集団コース
第14回	10/3 − 11/5	16	中小企業振興指導者訓練集団研修コース
第15回	1/11 − 2/17	9	電気製鋼技術集団研修コース
第16回	1/11 − 2/13	7	熱処理技術集団研修コース
	合計	154人	

(4) 名古屋センターにおけるオリエンテーションは、来日後、約1カ月間、日本語研修と組み合わせて実施する。

なお、中小工業開発セミナー（14名）、繊維機械工業セミナー（8名）及び電気事業経営コース（10名）の3コースについては、1日のみの生活オリエンテーションを実施した。

V　アセアン青年招へい事業実績

1. アセアン青年招へい事業実績

国名	分野	受入計画数	受入実績数 5月6日	5月13日	5月27日	7月1日	8月5日	8月12日	9月2日	9月16日	合計	受入率(%)
合計		750	123	38	88	166	54	52	38	189	748	99.7%
ブルネイ	アセアン混成	5	5								5	100
	小計	5	5								5	100%
インドネシア	アセアン混成	5	5								5	100
	都市勤労青年（A）	24			22						22	92
	青年指導者	24			24						24	100
	教員	24				22					22	92
	学生	24				23					23	96
	農村青年	24								26	26	108
	都市勤労青年（B）	24								27	27	113
	小計	149	5		46	45				53	149	100%
マレーシア	アセアン混成	5	5								5	100
	学生	20	20								20	100
	公務員	17	17								17	100
	都市勤労青年	18	18								18	100
	教員	30								30	30	100
	農村青年	29								27	27	93
	青年指導者	30								30	30	100
	小計	149	60							88	148	99%
フィリピン	アセアン混成	5	5								5	100
	教員	24	16								16	67
	都市勤労青年	24	23								23	96
	青年指導者	24				24					24	100
	学生（A）	24				29					29	121
	農村青年	24						20			20	83
	学生（B）	24						32			32	133
	小計	149	44			53		52			149	100%
シンガポール	アセアン混成	5	4								4	80
	教員	30			30						30	100
	学生	12			12						12	100
	都市勤労青年	25					25				25	100
	公務員（A）	31					29				29	94
	青年指導者	20								22	22	110
	公務員（B）	26								27	27	104
	小計	149	4		42		54			49	149	100%
タイ	アセアン混成	5	5								5	100
	学生	38		38							38	100
	都市勤労青年	38				38					38	100
	青年指導者	30				30					30	100
	農村青年	38							38		38	100
	小計	149	5	38		68			38		149	100%